

# 南大阪地域学会 第7回大会

2015年 10月23日(金) 12:55~14:30

大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス A12棟 サイエンスホール

入場無料

開会のあいさつ 12:55

南大阪地域学会 会長 辻 洋 氏 (大阪府立大学 学長)

研究発表 13:00~13:20

学生の白鷺での防災活動の取り組み 工学研究科M2 坪田 直樹 氏  
北区での住民による防災活動の実践 越中谷 淳 氏

講演 13:20~14:20

## 南海トラフの巨大地震と南大阪

京都大学元総長/京都造形芸術大学 学長 尾池 和夫 氏



—尾池 和夫 氏 プロフィール—

専攻は地震学、日本ジオパーク委員会委員長

2003年12月京都大学総長、退任後2008年10月国際高等研究所フェロー、2009年4月同所長、  
2013年4月学校法人瓜生山学園京都造形芸術大学学長に就任し現在に至る。

<主な著書>

- ・『新版活動期に入った地震列島』(岩波書店)
- ・『日本列島の巨大地震』(岩波書店)
- ・『四季の地球科学—日本列島の時空を歩く』(岩波新書)
- ・『2038年 南海トラフの巨大地震』マニュアルハウス など

### 【概要】

日本列島は、4枚のプレートが集まる変動帯にできた島弧です。その列島を現す基本的な自然は、地震と噴火と津波です。そのことを基本にしなが、地球のことを考えてみたいと思います。そして、あと20年ほどで起こる南海トラフの巨大地震に備えてほしいと思います。とくに時間のかかる準備は今から始めていただきたいと思います。

2011年東北地方太平洋沖地震の仕組みを解説します。本震の直後、世界の人びとが映像を通じて情報を共有し、東日本を見ていました。それらの映像から地球の姿を読み取るのに必要な知識は、日本列島の大地の仕組みのことで、今回の巨大地震は、マグニチュード(M)9.0という大規模な現象でした。それは1000年の時間、本州の半分という空間で観察しなければならない自然現象です。できるだけ普通の言葉で、地球科学の知識の蓄積をもとに、今回の巨大地震を解説します。

この地震は東日本大震災を引き起こしました。その震災を理解するための背景としても、地震の仕組みを知ってほしいと思います。また、21世紀の人びとにとって、資源、エネルギー、地球環境の問題など、考えるべき課題があります。これらを考えるとき、地球のことを知らずに考えても無意味です。生命のことを考えるときにも、それが生まれた地球のことを知らずには理解できません。その地球に起こった巨大な現象を1つの実例として、地球のことを学んでいかなければなりません。

東日本の巨大地震に学びながら、これから起こる西南日本の大規模地震の予測をお話ししたいと思います。西日本は1995年以来地震活動期が続いています。まだいくつかの活断層がこれから動き、2038年頃には活動期のピークとして南海トラフの巨大地震が起こり、大津波が起こります。そのような地震を知って、震災に備えてほしいと思っています。

主催：上方文化研究センター、南大阪地域学会 共催：コミュニティ・デザイン研究所、教育福祉研究センター 後援：大阪府立大学

共催：大阪府立大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」